

# 日光二荒山神社



重要文化財の神橋。1636(寛永13)年の修復の際、現在のよう朱塗の美しい橋になった。

## 日光に宿る神秘の力 (今に伝える)

日光二荒山神社は、日光の山岳信仰の拠点として古くから崇拝され、特に中世には多数の社殿がつくられました。さらに江戸時代になると徳川幕府によって新しく本殿や社殿が造営されました。

### 【本殿】(重文)

本殿は1619(元和5)年、二代将軍秀忠公が造営寄進したものです。安土桃山様式の美しい八棟造となつています。単層入母屋の反り屋根造で黒漆塗の銅瓦葺き。社殿の正面階段の上に向拝(ひさ

## 神仏が共に刻んだ歴史 (いにしへの日光山)

輪王寺は日光を開山した勝道上人による四本龍寺を起源としています。日光山の中心的な寺院として発展し、1653(承応2)年に三代将軍家光公の霊廟である大猷院が造営されると、徳川幕府の尊崇を集めるようになりました。

### 【開山堂】(重文)

現在の東照宮の位置に、さらに東照宮創建によって現在の二荒山神社付近に移り、明治の神仏分離によつて今の場所に移築されました。現在、2020(平成32)年の完了を目指して本堂の半解体修理を行っています。

### 【三仏堂】(重文)

日光の三山(男体山、女峰山、太郎山)を御神体とみる山岳信仰との習合により、その本地仏の千手観音(男体山)、阿彌陀如来(女峰山)、馬頭観音(太郎山)が祀られています。慈覚大師円仁が比叡山の根本中堂を横して建立したともいわれています。建物は創建当時は滝尾神社近くにありましたが、鎌倉三代将軍源実朝公によって



半解体修理の様子を工事期間中に限り回廊から見る事ができる。



山岳修験道のなごりを残す、強飯式の様子。

### 【夜叉門】(重文)

夜叉門は八御門の様式で屋根の前後の軒は唐破風形。牡丹唐草の彫刻で飾られ、「牡丹門」とも呼ばれています。また、柱には胡麻殻の面がとられています。正面左右の間に赤と緑、背面に白と青色の夜叉像が祀られています。

### 【本殿・相の間・拝殿】(国宝)

本殿・相の間・拝殿は、連なつた建物で、それぞれの部屋の間には仕切りがありません。拝殿から本殿が見通せるようになっています。拝殿は64畳の広さがあり、天井に描かれた140もの竜は、狩野一門の作といわれます。拝殿と本殿を結ぶのが相の間。格天井には鳳凰が描かれ、本殿との境には降竜、昇竜の絵を見ることが出来ます。そして本殿。殿内は金色をふんだんに取り入れたさまざまな彫刻にあふれ、金閣殿とも呼ばれています。

### 【神橋】(重文)

勝道上人が日光を開山する時に、蛇が化身して橋となり、大谷川を渡ることができたとの伝説が残ります。神橋は1636(寛永13)年に現在のよう朱塗の美しい橋になりました。江戸時代には14回の修理・架け替えが行われています。1902(明治35)年の洪水でも流失し、元の形に再現されました。

### 【神輿舎】(重文)

神門をくぐつた正面の場所にあります。単層入母屋、反り屋根造で、黒漆塗の銅瓦葺きになっています。総弁柄漆塗で回り縁がついています。拝殿の奥は石段で下りるようになつていて、渡り廊下で唐門をくぐつて本殿へと続いています。本殿とは異なり、彩色文様や彫刻もなく、単純なつくりながら力強さを感じさせます。

### 【別宮本宮神社】(重文)

大谷川と稲荷川の合流点付近にあり、祭神は味相高彦根命(あじすきたかひこねのみこと)です。808(大同3)年に創建されたと伝えられ、現在地に移つた後も幾度か火災などで焼失し、その後再建されてきました。本殿は三間社流造で銅瓦葺き。拝殿とともに全体に簡素なたたずまいをみせています。

### 【別宮滝尾神社】(重文)

二荒山神社本社から北西に約1キロ。うっそうとした山中にあります。本殿、唐門ともに重要文化財に指定されています。祭神は田心姫命(たごりひめのみこと)で、本殿の背面の扉から女峰山を拝す

## 家光公を祀る霊廟 (大猷院)

唐門は中国風の門ということですが、向唐門の様式で屋根の前後の軒は唐破風形になっていました。大猷院の中では一番小さな門ですが、細かい地紋彫の彫刻や透彫の銚金具など、一面に施された細かく精巧な細工は見事です。

### 【皇嘉門】(重文)

皇嘉門は非公開の奥の院(家光公の墓所)へ通じる入口にある門です。中国・明朝時代の「竜宮造」の建築様式です。「竜宮門」とも呼ばれ、他の門とは印象が異なります。外側は極彩色で彩られ、腰壁は密陀塗という特殊な技法で白色に塗られています。



大猷院本殿。本殿の殿内は金箔をふんだんに使い、様々な彫刻にあふれる。



春を告げる弥生祭、付祭りの様子。

すが、日光では現存する中で最も古の建物です。内部には弥生祭で渡御する3基の神輿が納められています。

### 【別宮滝尾神社】(重文)

大谷川と稲荷川の合流点付近にあり、祭神は味相高彦根命(あじすきたかひこねのみこと)です。808(大同3)年に創建されたと伝えられ、現在地に移つた後も幾度か火災などで焼失し、その後再建されてきました。本殿は三間社流造で銅瓦葺き。拝殿とともに全体に簡素なたたずまいをみせています。

### 【別宮滝尾神社】(重文)

二荒山神社本社から北西に約1キロ。うっそうとした山中にあります。本殿、唐門ともに重要文化財に指定されています。祭神は田心姫命(たごりひめのみこと)で、本殿の背面の扉から女峰山を拝す



簡素なたたずまいをみせる滝尾神社。中央が縁結びの笹。